



「放射線のホント」「はウソだらけ

復興庁が無料で配布している電子冊子「放射線のホント」は問題のすり替え、ウソ、被害実態の隠ぺいがいっぱいのとんでもない代物です。

例えば五ページ(左図)。



「放射線はゼロにできないの?」という問いかけに「ふだんから見の回りにあります」「空気や体のなかにもありますし(略)身の回りからはゼロにはできません」と答えています(放射線は放射性物質が崩壊するときに出す線のことで単位はベクレル)。

自然と人工では生体への作用は全く異なります。例えば、カリウム四〇(自然)と、セシウム一三七(人工)は化学的性質が似ていると言われま

すが、同じ一μg重量でベクレル数(崩壊回数)は千万倍も異なります。

自然放射性物質中で、人に一番身近なのが、カリウム四〇(K四〇)です。K四〇は地球が出来た四〇億年前から存在し、生命もその環境下で発展してきました。K四〇は通普のK三九の一万分の一しかなく、しかもバラバラになってK三九の中に存在しています。

Kは動物にも植物にも必須元素ですが、まったく蓄積せず、体に悪影響はありません。

セシウム一三七(Cs一三七)は、一九四五年広島・長崎への原子爆弾投下によって地球上に出され、一九四〇年代、一九六〇年代のアメリカ・ソ連の核実験、一九五四年ごろからの大規模な水爆実験や核事故で高濃度に放出されました。

一九六〇年代前半に日本人は、一日に一ベクレル以上摂取していたと推定されています。一九八六年のチェルノブイリ原子力発電所事故においても他の放射性物質とともに大量に放出されました。

今、日本で癌患者が増えているのは、これらの



影響ではないでしょうか？
復興庁は「風評被害を払拭」といいながら、自然界に元からある放射線と核分裂によって生じる放射線を同列に並べ、危険がないかのように私たちを騙^たま^まそうとしているのです。

また、十三ページでは



「どれくらいの量なら健康に影響があるの？」という問いに「一〇〇〜二〇〇ミリシーベルトの被ばくでの発がんリスクの増加は、野菜不足や塩分の取りすぎと同じくらい」と答えています。

野菜不足や塩分の取りすぎで癌になりますか？

百歩譲ってガンの遠因の一つになるとして（ほんとはどうか知らないけど）、福島原発事故以前は年間一ミリシーベルトが基準です。
それが事故が起きたために基準を緩め、福島原発事故による被災地は年間二〇ミリシーベルトが帰還の基準になっていきます。赤ん坊も含め、子どもから大人まで放射線管理区域（食事も会話も睡眠も禁止の場所）と同等的年間二〇ミリシーベルトの地での生活を強要されているのです。そして一〇〇ミリシーベルト以下の健康被害は切り捨てようとしてくれています。

また、二五ページでは「ふるさとに帰った人たちにも日常の暮らしが戻りつつあります」と書いています。

福島県では未だに五万人近い人々が避難生活を余儀なくされています。

やむなく移住した人も多数いますが、「区域外避難者」は統計から除外されています。この破廉恥な「放射線のホント」撤回運動が起っています。先日は署名にご協力いただき感謝です。

※この記事を読んで、まだの方は「『放射線のホント』撤回署名」とネットで検索してください。

アート・アド分会 N